

SESSION 2024

**AGREGATION
CONCOURS EXTERNE**

**Section : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES
LANGUE ET CULTURE JAPONAISES**

COMMENTAIRE DE TEXTE EN LANGUE JAPONAISE

Durée : 7 heures

Documents autorisés : Dictionnaire Kôji-en, Iwanami, 1983, et rééditions; Dictionnaire Taishûkan kango shinjiten, Taishûkan, 2001, et rééditions ou, à la place de ce dernier, Dictionnaire Shinsen kanwa jiten, Shôgakukan, 1983 et rééditions. .

L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel électronique (y compris la calculatrice) est rigoureusement interdit.

Il appartient au candidat de vérifier qu'il a reçu un sujet complet et correspondant à l'épreuve à laquelle il se présente.

Si vous repérez ce qui vous semble être une erreur d'énoncé, vous devez le signaler très lisiblement sur votre copie, en proposer la correction et poursuivre l'épreuve en conséquence. De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, vous devez la (ou les) mentionner explicitement.

NB : Conformément au principe d'anonymat, votre copie ne doit comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé consiste notamment en la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de la signer ou de l'identifier.

Le fait de rendre une copie blanche est éliminatoire

Tournez la page S.V.P.

日本語で次のテキストを解説してください。

Extrait de : 成田龍一『大正デモクラシー』、岩波新書、2007年

新中間層と
専業主婦
こうした女性雑誌には、一九〇三年創刊の『家庭之友』(のち『婦人之友』)、『婦人公論』(一九一六年)などがあり、一九二〇年には『婦人くらぶ』が創刊される(のち『婦人倶楽部』)。一九二〇年代後半には、『主婦之友』は二〇万部以上を発行していた。女性の識字率の向上が背後にあるが、回し読みや夜店で月遅れのバックナンバーを購入するものも多く、女性雑誌には膨大な数の読者が存在していた。

『婦人公論』は議論が先行し、いくぶんハイブラウであるのに比し、『主婦之友』には実用記事が多く掲げられるなどの差異はある。だが、いずれの雑誌も都市に暮らす新中間層の家族をモデルとした。「中流」の理念と規範を記し、あらたな家族像と家庭像を提示していく。想定されている夫の職業は、官公吏、教員、会社員、職業軍人などの俸給生活者である。中小商工業者(旦那衆)のような家産的な職業ではなく、学校教育(学歴)を通して社会的な地位を獲得した夫を持つ家族である。この家族では、専業主婦である母親の愛情と教育が子どもに注がれる。

「真の女
と恋愛
家族をめぐる議論も展開された。平塚らいてう「母性の尊重に就いて」(『文章世界』一九二六年五月)は、「過去の婦人問題が——所謂旧き女権論者等の主張の中に含まれている婦人問題が「女よ、人たれ」とすれば、「更に進化し発展した今日の婦人問題は「人たる女よ、真の女たれ」ということだと述べる。女性性の発現の誕生と重ねて主張された恋愛はしっかりと定着し、厨川白村『近代の恋愛観』(一九二三年)などがベストセラーとなった。

こうしたなかで、獲得した恋愛をいかに位置づけるかをめぐる論争も起さる。『婦人公論』誌上でなされた、山川菊栄と高群逸枝の論争は、その代表的なひとつである。マルクス主義の立場に立ち、経済制度に着目する山川の議論は、階級的な立場を強調する(景品つき特権品としての女)一九二八年一月。それに対し、高群の議論(山川菊栄氏の恋愛観を難す)五月は、女性の美について考察し、女性原理に焦点を定める。ふたりの間で重ねられた応酬は、恋愛を対象にしながら、女性の社会的な解放の方向を論じている。

新しい男女
一九二〇年代後半の家族の様相を敏感に写し取っていたのは、広範な読者が相手である新聞や雑誌を発表の舞台とする小説家であった。ユーモア作家・佐々木邦は「主権妻権」(一九二四年)などにおいて、家族本位で、夫婦と子どもとの生活のなかでのささやかな幸せに暮らし、私生活を重視するサラリーマン家族を登場させた。

男性と女性の関係が抑圧的な関係を内包するという立場からは、女性同士の関係が希求される。女性たちに圧倒的な人気を博した吉屋信子の小説には、女性同士のもつ友情が記される。あらたな家族形態でも、依然として家父長的な振舞いをする男性への不信感が吉屋の小説の底流にあり、権力関係のない女性同士の関係が理想的に描かれた。

また、「新しい男」とでもいべき存在の登場にも、留意すべきであろう。画家の竹久夢二はそのひとりで、家父長的な存在としての自己を否定する。竹久の描く女性像はいかにも頼りなげだが、その女性に、男性性を対置し彼女らを支えることを拒否するのである。

「職業婦人」近代家族の拡大ともなう「主婦」の確立は、「職業婦人」の存在と併行している。一九二〇年代後半には、女性の職場進出は、量的にも領域的にも増加する。奥むめおが中心となった結社は、その名もずばり職業婦人社を名乗り、機関誌を『職業婦人』とした。創刊号（一九三三年六月）に寄せた、伊藤夏子「職業婦人の起つべき時」は、「労働婦人」とは「紡績工女」のみではなく、「女教員」「女事務員」「女医」「看護婦」「女店員」「タイピスト」など、多様に存在することをいう。そして、みずからを「中流婦人」とし「女工の様な労働者ではない」という「妙な自尊心」を持つ女性を批判する。

女性の職業への進出と職種が多様化は目立っており、各市町村が調査を行う。東京市による調査の「婦人職業戦線の展望」（一九三二年）は、「タイピスト」「事務員」「給仕」が多数であるとし、女工と教員、看護婦が大半を占めていたころとは、大きく変わってきている。もともと、就職経路は、八割が「知人親戚の紹介」であり、次第に「学校の紹介」が増えていく。「女子部」をもつ簿記学校、商業学校の創設は、そのための回路であった。

『職業婦人』（一九三三年六月）は、「職業婦人としての私の不平、不満、抱負、喜び、希望！」を特集し、男性社会に直面した女性たちの多様な声を集めている。電話交換手の松村よし子は、仲間はその職業を恥じ「女学生風」を真似るが、「交換手だといって馬鹿にせず」に取り扱ってくれたら「みじめな虚栄心」はなくなると訴え、郵便局員の前田とし子は、「男子事務員」が「いやな用事やめんどろな仕事」を「女にさせる」と批判する。小学校の教師である金子りきも、月給は男性より少なく、校長になれないなど、男性に許されることが「罪」とされると訴える。

また、銀行員の岡山しづは、「嫁入りまでのつなぎ」とする考えを社会や「職業婦人自身」からなくしたいとし、職業は明かせないという吉崎いと子は、「生活のために」脅かされる「境遇」をあげ、「この文明とやらが社会とやらがのろわしくてなりません」と述べた。評議会でも婦人部論争が起こり、女性労働者の独自性が議論されるのは、ようやく一九二六年四月のことである。

『主婦之友』『婦人公論』など「主婦」にむけた雑誌は、多分に差別意識を含みながら「職業婦人」への言及を行っている。「職業婦人に対する使用主からの註文は何か？」（『主婦之友』一九二四年八月）は、職業婦人は「向上心に欠け」「朋輩同志の嫉妬」がみられ（白木屋洋服店営業部長）、「体質が弱く」「能力の低いこと」（貯金局庶務課長）があげられ、「風紀問題」を「非常に嚴重にし」局員同士の結婚は認めない（通信次官）などと、言

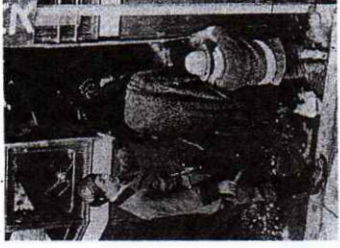


図 15-3 大阪市営バスの女性車掌。「職業婦人」はさまざまな職場に進出した（朝日新聞社）。

わせ放題である。

INFORMATION AUX CANDIDATS

Vous trouverez ci-après les codes nécessaires vous permettant de compléter les rubriques figurant en en-tête de votre copie.

Ces codes doivent être reportés sur chacune des copies que vous remettrez.

Concours	Section/option	Epreuve	Matière
EAE	0430A	102	2770